

囲碁の言葉 その4 【素人と玄人】

大和田囲碁同好会 成田 滋

囲碁にまつわる素人と玄人の話題です。「白うと」、「黒うと」いう表記はありませんが、白と黒の囲碁から生まれた言葉が素人であり玄人です。でもおかしいな、という疑問が生まれます。対局するとき、碁の強い人が白を持ち、弱い人が黒を持ちます。もっとも平安時代では強い人が黒を持って対局をしていたといわれます。

平安時代にこれといって芸がなく、ただ白い粉（おしろい）を塗っているだけの技芸人のことを白人(しろひと)と呼んでいました。時代を経て江戸時代になると白人が素人になり「素」の漢字が使われます。物事に経験のない人、未熟な人、そのことを職業としない人のことです。素の漢字には手を加えていない、〈色をつけてない〉 〈加工や装飾していない〉 という意味があります。ありのままという意味があり素顔、素足、素肌、素っぴんなどのように使われます。

それに対してある特定の技術に熟練した人や専門家などを指す黒人(くろひと)という言葉が生まれます。次第に黒よりも奥深く、容易ではないという意味の「玄」の漢字が当てられ、玄人に置き換えられたと考えられます。

玄人とは、その道に熟達した人、特別の能力を究めた人です。そのために大いなる「苦勞をした人」かもしれません。さらに、「玄」という漢字には〈黒い〉ということの

他に 〈微妙で深遠な理〉 という意味があります。老荘の道徳における微妙な道ともいわれます。江戸時代では医者や僧侶を指していました。「玄人」 「素



人」 はよく考えられたあて字という印象も受けます。

-----【素人と玄人】-----

囲碁の世界では、素人(アマチュア)と玄人(プロ棋士)がいます。特別の能力を究めた人、そのために大いなる「苦労をした人」がプロ棋士です。碁打ちとも呼ばれます。法律では職業として囲碁を行うのには資格は不要ですが、試合を開催する団体が定める規定でプロ棋士となります。規定で入段試験を突破した者だけがプロ初段の棋士となり、プロ棋戦への参加資格を得ます。プロ入りのためには、普通まずプロの卵である院生となって入段試験手合を勝ち抜くことで資格を得ます。また院生にならずとも、外来で予選・試験手合を突破することでもプロ入りは可能です。京都大学医学部を卒業後、編入試験によってプロ入りした坂井秀至氏や「英才特別採用推薦棋士」制度で棋士となった仲邑堇さんらがそうです。